

2010年度 第19回の整数論セミナー

日時：2010年11月26日(金)

講演者：小山 信也(東洋大学)

タイトル：量子エルゴード性の一般化

アブストラクト：

量子エルゴード予想とは、ラプラシアン固有関数の値分布が固有値の増大に伴って限りなく一様になるだろうとの予想であり、コンパクト・リーマン面に対してこれを証明したリンデンシュトラウスが2010年にフィールズ賞を受賞したことは記憶に新しい。本講演では、固有値の代わりに合同部分群のレベルを増大させたとき、アイゼンシュタイン級数の値分布が、量子エルゴード性と同じ現象を呈するという事実を紹介する。

なお、本講演の内容は12月9日に発売される予定の拙著『素数からゼータへ、そしてカオスへ』（日本評論社）にも詳しく解説した。